

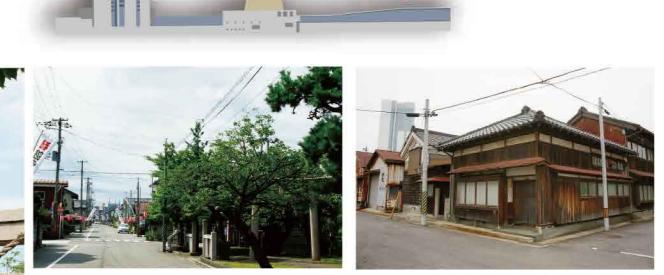
沼垂のまちなみ ⑥古町エリア 沼垂古町界隈 古信濃川と置き返り地

沼垂町は現在地に移転した後も町の西側を信濃川に浸食されました。浸食が止まり、陸地が増え始めたのは延享年間(1744~48)頃からです。信濃川中州と沼垂町の間の流路は次第に狭まり、古信濃川と呼ばれました(図C)。



このように、いったん川に浸食された土地が陸地となつて再び利用された土地を「起き返り地」といいます。栗ノ木川以西には、起き返り地が再び町並みとなつたところがありました。宝暦3年(1753)には元古ニノ町だった辺りに「新片原町」という町名が、明和6年(1769)の絵図には元古三ノ町だった辺りに「新地」という地名が現れます。これらは現在の沼垂西1・2丁目と3丁目の一部にまたがる場所で、起き返り地と考えられます(図B)。

現在、ピア万代と朱鷺メッセがある場所が古信濃川の河口だった場所です。



沼垂の湊稻荷神社は、浸食のために通船川(旧阿賀野川)対岸の王瀬に移転していましたが、明和6年(1769)、古四ノ町があつた所の下手の起き返り地に戻ってきます。文化年間(1804~18)頃には神社の周辺も市街地になり、幕末までに稻荷門前、稻荷横門前、稻荷川前町など神社名の付いた多くの町が出来ました(図B)。

